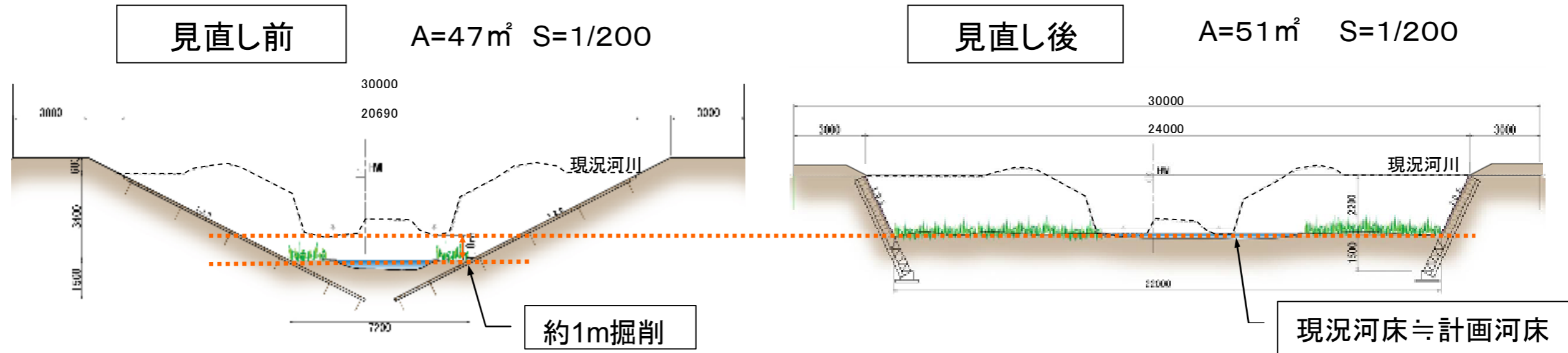


名月川合流点～唐木橋までの改修断面の見直しについて



	見直し前	見直し後
護岸勾配	2割	5分
現況の河床掘削	1m程度	現況河床を可能な限り活かす
事業費	全体工事費: 約4.5億円 (内訳) 土工 約0.8億円 護岸工 約2.6億円 道路橋 約0.9億円 落差工 約0.2億円	全体工事費: 約4.5億円 (内訳) 土工 約0.9億円 護岸工 約1.6億円 道路橋 約0.9億円 落差工 約1.1億円
長所	・護岸が緩やかであり、親水性が高い。	・河床幅を広くとることで、川の変化を許容する。 ・現況河床の掘削をできる限り小さくすることにより、多様な河床環境を保全する。
短所	・みお筋の移動が妨げられ、川の働きが活かされない単調な形状の川となる。 ・大きく河床掘削を行うため、環境面に与える影響が大きい。	・護岸勾配が急であるため、親水性は低くなるが、階段を設置することで、アクセスを確保することが可能。

ほぼ変わらず

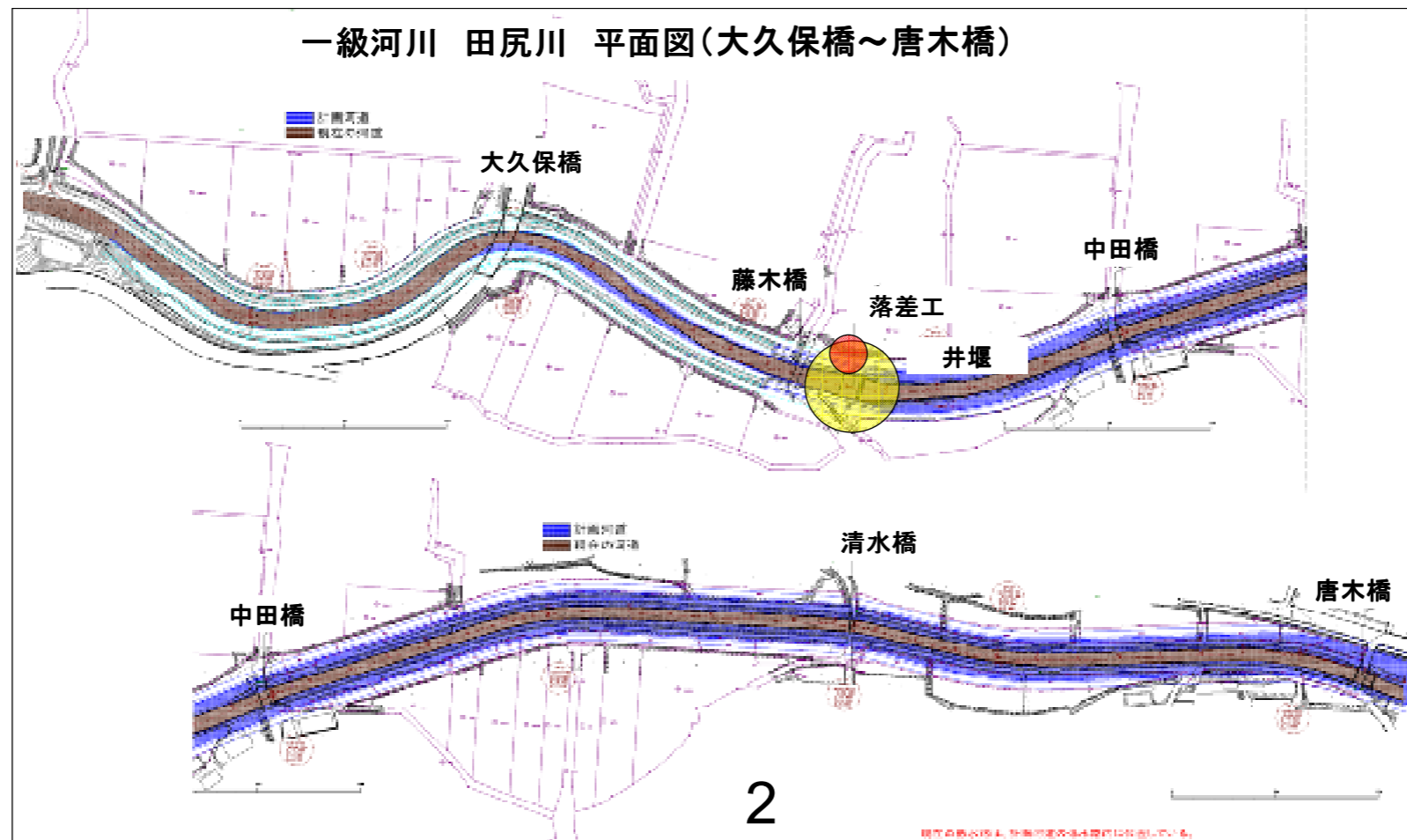
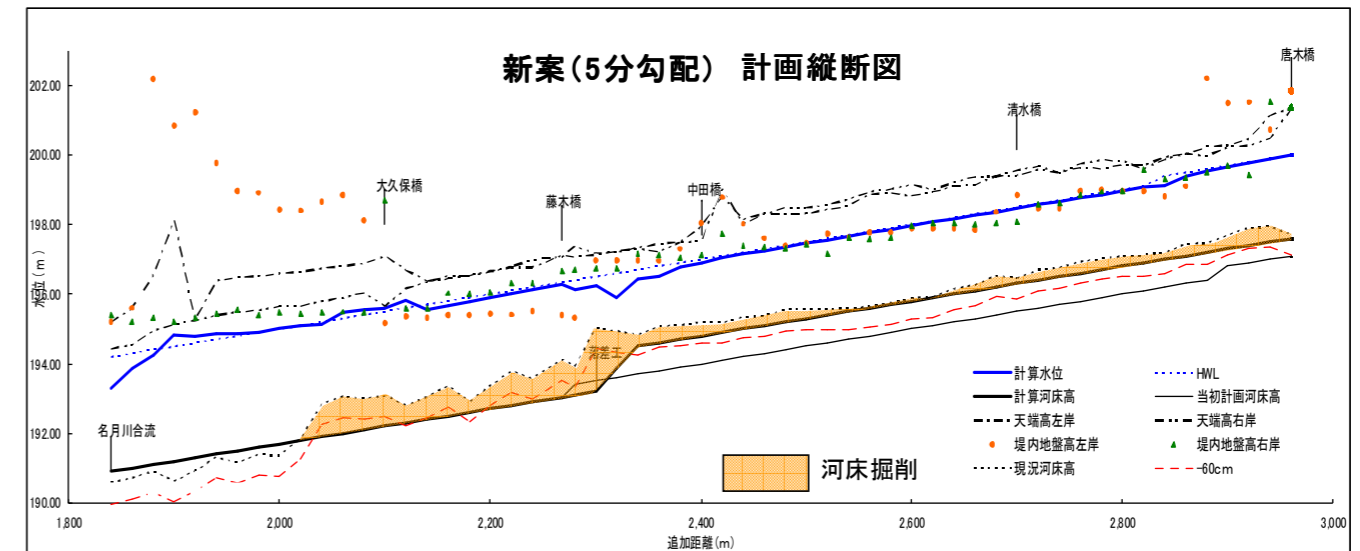
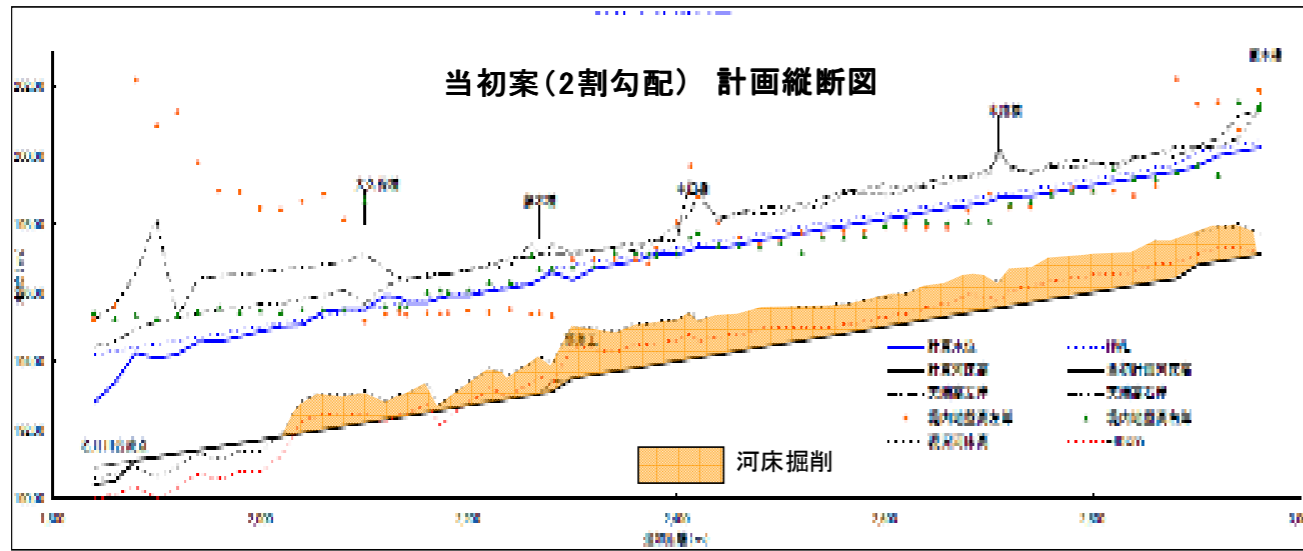
名月川合流点～唐木橋までの改修縦断の見直しについて

見直し前

S=1/200

見直し後

S=1/200

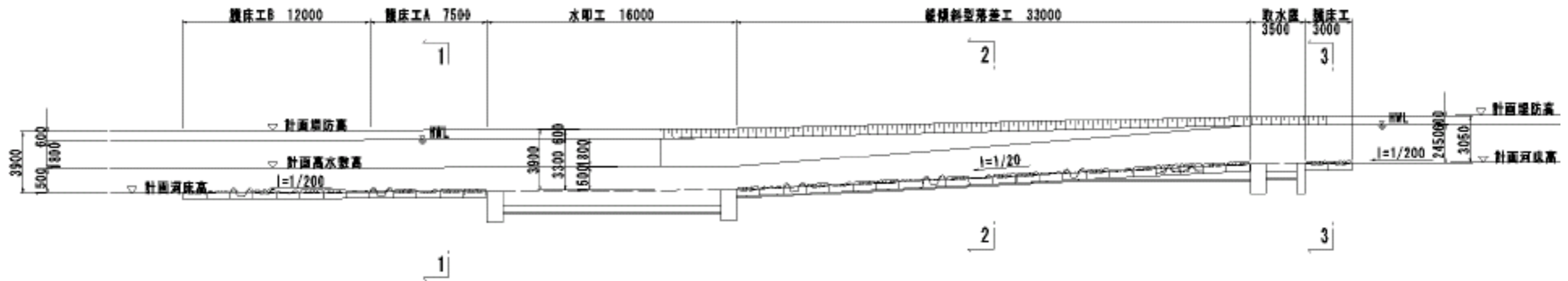


落差工について

田尻川では回遊魚等が移動できるよう魚道の整備を河川全般で計画している。本整備計画内の落差工(約H=1.5m)においても魚類の移動を考慮し、魚道の設置または緩傾斜型の構造とする。詳細は別途検討を行うこととするが、この際勾配をできる限り緩くとることが望ましく、特に小型魚の移動については、粗石等を適切に配置し、流速が弱まる静穏域やプール状に休憩ができる箇所を設けるなど対策が重要となる。

参考までに魚道機能を兼ね備えた屈とう性型落差工の図を以下に示す。

縦断図



平面図

